

ワクチンの副反応

ワクチンを打ったあと、打った場所の腫れ・痛み、発熱、頭痛などの副反応が起こることがあります。

治療を必要としたり、障害が残るほどの重いものは、極めて稀ですが、ワクチンによる何らかの副反応が起こる可能性はゼロではありません。

現在承認申請されている新型コロナウイルスのワクチンについても、打った場所の痛みが66～83%の方にあったことが報告されています。また、38度以上の発熱が、2回目の接種後11～16%の方に発生したと報告されています。

アメリカでは、1月18日までに、ワクチンの接種による急性のアレルギー反応であるアナフィラキシーが100万人に5人程度報告されています。日本でも、ワクチン接種後に会場で一定時間様子を見て、万が一アナフィラキシーが起こっても、医師や看護師が必要な対応を行うこととしています。

このワクチンの承認にあたっては、国内外のデータを用いて、発症や重症化の予防などワクチン接種のメリットが、副反応のデメリットよりも大きいことを確認していきます。

政府としては、安全性に関する情報を、適切に収集し、国民の皆様提供していきます。